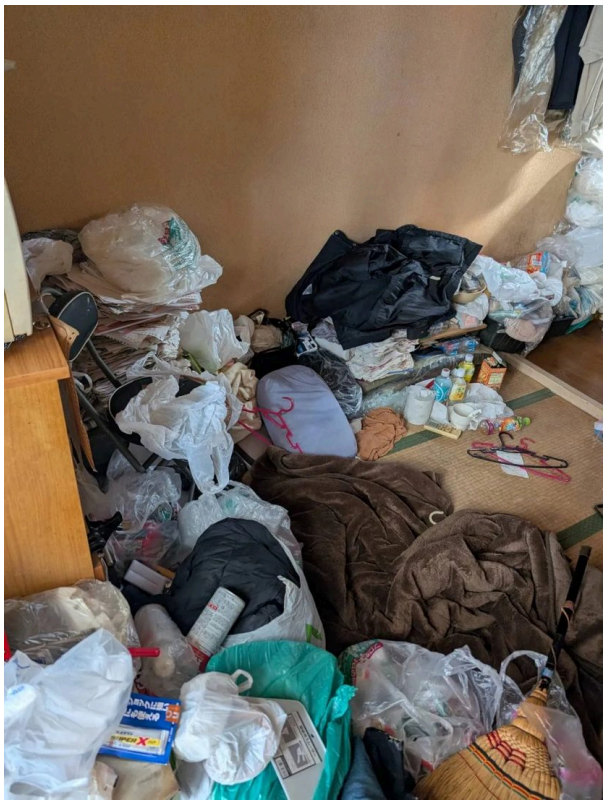
「約200件、すべて断られた」退院できるのに帰る家がない。訪問看護の代表が10年以上ひとりで続けてきた部屋探し

病気で動けなくなった、ひとり暮らしの男性。治療を終えても、家はエレベーターのない4階でした。社員も知らない代表の10年を妻が動画にし、「みまもる家。」として初めてのクラウドファンディングへ



この男性が住んでいたお部屋。体が動かなくなり、片付けられなくなっていた（実際の写真）

退院できるのに、帰る家がない。
そんな方のために、株式会社ホープ（大阪市阿倍野区、代表：井嶋和貴）は、国が見守りつきの住まいを広め始める前から、10年以上、大阪でお部屋を用意してきました。
今回、さらに6部屋分、家具家電つきのお部屋の準備を進めています。

ここからは、代表の妻で取締役の井嶋 文（あや）が、そばで見てきた夫の10年をお伝えします。

▶ 私が作った、夫の10年の動画（YouTube）
https://www.youtube.com/watch?v=_P0iCGMaAgI

約200件、すべて断られた

夫が支えてきた方のおひとりです。
頼れる家族のいない、ひとり暮らしの男性。
病気で体が動かなくなり、お部屋も片付けられないまま。
病院へ行ったときには、重い病気が進んでいました。

治療を終え、退院できるところまで回復。
けれど、家はエレベーターのない4階です。

もう階段は上がれず、リハビリのためのベッドを置く広さもありません。

新しいお部屋を探すと、条件に合うのは約200件。
けれど、ひとり暮らし・病気・年齢のことを伝えると、すべて断られました。

休みの日のたびに、作業着で

この方が戻れなくなった4階のお部屋も、返すには片付けと修繕が必要です。
業者に頼めば、お金がかかります。

だから夫は、休みの日のたびに作業着で通い、ゴミは自分で軽トラックに積み、焼却施設まで何往復も。
畳も替え、きれいにして大家さんへお返し。
かかったお金は、すべて夫が自分で出しています。



夫が自分で軽トラックに積み、焼却施設まで何往復もした



ものをすべて運び出したあと。畳も傷んでいた（実際の写真）



片付けと修繕を終え、大家さんにお返ししたお部屋

知っていたのは、私だけだった

夫は10年以上、会社の仕事とは別に、入居を断られる方のお部屋探しや片付けを、個人の資金で、ひとりで続けてきました。

夫は、自分のことを表に出すのが得意ではありません。
SNSで発信する時間があるなら、自分にできることをしたい人です。
だれにも言わず、社員も知らないまま、10年以上。
この活動を知っていたのは、ずっとそばで見てきた私だけでした。
私も、少しずつ手伝ってきたひとりです。

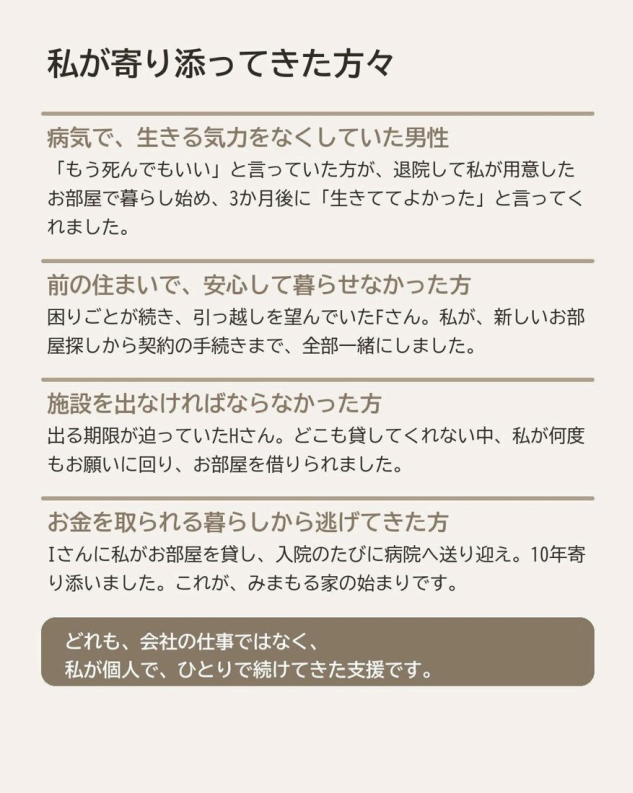
社員も知らなかったその活動を、私が動画にまとめました（記事のはじめの動画です）。
写真や動画も、
専門の方には頼まず、素人の私が自分で撮って、一つずつ作っています。
会社のホームページや SNS も、私が担当しています。
できることは、すべて自分たちで。
一つひとつ、心を込めて作っています。

「ひとりには、させない」という夫の思いを、少しでも実現したくて、
「みまもる家。」として広げる第一歩に、はじめてのクラウドファンディングに挑戦しています。

「医療の資格がない」悔しさから、訪問看護を立ち上げた

夫が持っていたのは、不動産の資格（宅地建物取引士）でした。
お部屋は探せても、体のことは支えられない。
その悔しさから、2015年、株式会社ホープで訪問看護ステーションを立ち上げました。

その後も勉強を続け、介護福祉士・相談支援専門員の資格を取り、立命館大学大学院 経営管理研究科（MBA）を修了しました。
いまも研究生として、住まい・医療・福祉の制度のすき間を調べています。



夫が、会社の仕事ではなく個人で、ひとりで続けてきた支援

「生活保護がなかったら、今生きていない」山本さんのこと

大阪・西成で、奥さまと何十年もお弁当屋さんを営んだ山本さん（仮名）。
脳梗塞で倒れ、蓄えも底をつき、生活保護を受けながら、不自由な体で、ひとりで暮らしていた方です。

山本さんは、訪問看護に来てもらいたかった。
けれど当時は、居住支援もなく、貸してくれる家も見つからず、見守る人もいないまま、同じ部屋に住み続けるしかありませんでした。
そしてまた倒れ、病院で亡くなりました。
身寄りがなく、夫に連絡が来て、お部屋の後片付けも、夫がひとりでしました。

お部屋の壁には、亡くなった奥さまの写真が、貼られたままでした。
その写真を見て、夫は涙しました。
もっと力になってあげたかった、と。



山本さんのお部屋の壁に、貼られたままだった奥さまの写真（お顔はぼかしています・実際の写真）

「自分に、もっとできることはないか」
その思いで、株式会社ホープは、大阪府の指定を受けた「居住支援法人」になりました。



山本さんのお部屋に残っていた、2020年のカレンダー（実際の写真）

▶ 山本さんのこと（YouTube）
https://www.youtube.com/watch?v=YS0F7kZhsN8

退院の前日までに、お部屋を整えてお迎えする

いまは、退院の前日までに新しいお部屋を借り、家具も家電も、カーテンもそろえてお迎えしています。
お部屋に入られた方は、「明るくて、全てそろっていて、本当にありがたい」
と言ってくださいました。
（ご本人の同意をいただいています）



入居の日。ご本人の同意をいただき、お顔はぼかしています



入居前、家具家電をそろえて、看護師が見守ります（実際のお部屋と、ホープの看護師）



退院から、訪問看護が続くまで

退院できるのに、病院から出られない約12万人

医療の必要はもうないのに、住む場所や支えがないために入院を続けることを、「社会的入院」といいます。

全国の病院・診療所に入院している方のうち、受け入れの条件が整えば退院できる方は約12万人。
入院している方の、約10人に1人です。
（厚生労働省「令和5年 患者調査」）

心の病で長く入院している方のうち、退院が難しいとされた方の約3分の1は、その理由が「住まいや、暮らしの支えがないため」でした。
（厚生労働科学研究・平成24年度）



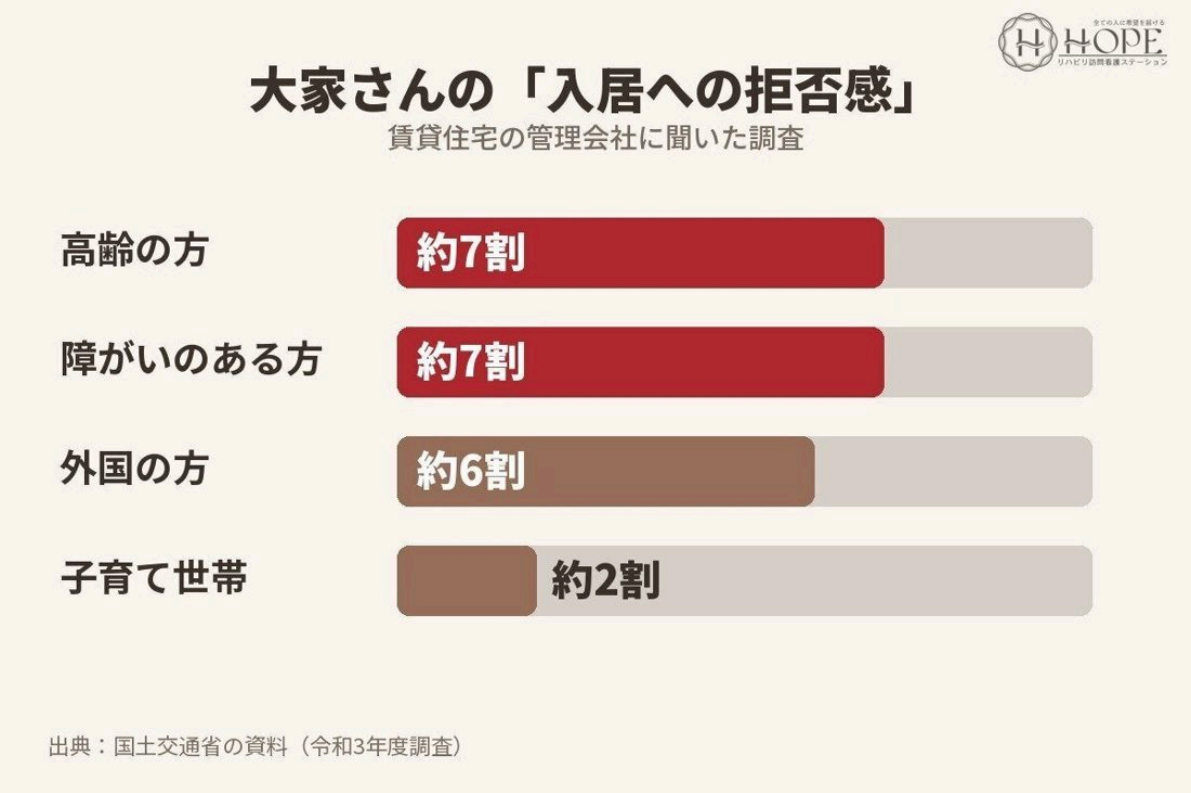
退院できるのに、帰る家がない方が、全国で約12万人（実際のお部屋の写真）



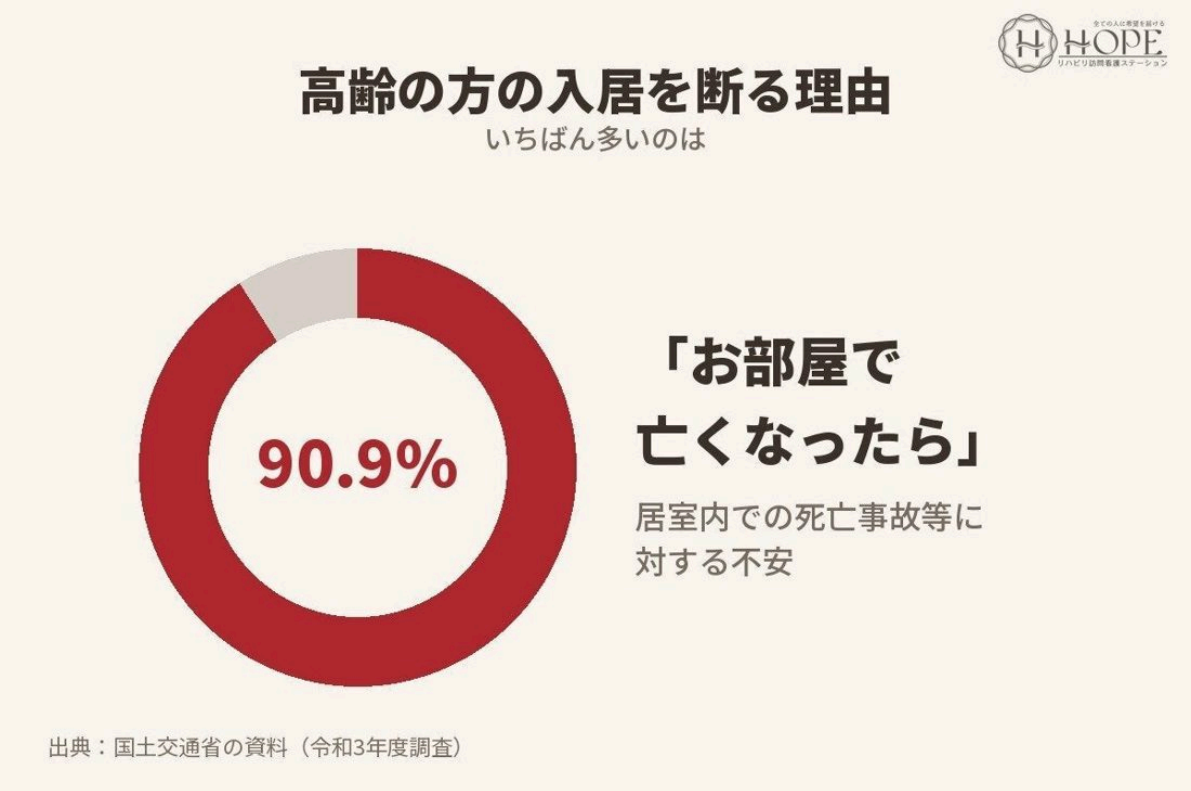
なぜ、帰る家がないのか

大家さんにも、大家さんの不安がある

大家さんの側にも、理由があります。
大家さんの約7割が、高齢の方の入居に拒否感を持っています。
いちばんの理由は、「お部屋で亡くなったら」という不安です。
（国土交通省・令和3年度調査）



大家さんの「入居への拒否感」（国土交通省・令和3年度調査）



高齢の方の入居を断る理由で、いちばん多いのは「お部屋で亡くなったら」（国土交通省・令和3年度調査）

「部屋で倒れたら」「亡くなったら」。
その気持ちも、わかります。
だから私たちは、居住支援法人として大家さんと住む人の間に立ち、訪問看護で見守ることで、大家さんの安心にもつなげています。
夫は、大家さん・管理会社さんに一軒ずつご事情を説明して、お願いして回ってきました。

国も、2025年10月に改正住宅セーフティネット法を施行し、居住支援法人などが大家さんと連携して見守る「居住サポート住宅」の仕組みを始めています。
（国土交通省）

「みまもる家。」とは

帰る家のない方に、お部屋と、見守る人のいる暮らしを届ける取り組みです。
ご案内するのは施設ではなく、ふつうの賃貸住宅。
ご本人の「自宅」になります。

・株式会社ホープが、大阪府の指定を受けた「居住支援法人」として、大家さんと住む人の間に立ちます。
・「ホープリハビリ訪問看護ステーション」の看護師・理学療法士・作業療法士が、訪問で体と暮らしを見守ります。
・家具・家電は株式会社ホープホームの持ち物としてお部屋に備え付け、退去のあとは、次にお使いになる方へつなぎます。

お約束するのは、豪華なお部屋ではありません。
その方の体と暮らしに合い、安全に暮らし続けられるお部屋です。
心身ともにひとり暮らしが難しくなったときには、老人ホームや病院という次の場所があります。
まずは自宅で、自分らしく。
その「入り口の自由」を、夫と一緒につくりたいと考えています。

何もない部屋では、暮らしは始まらない

借りたばかりの賃貸のお部屋には、何もありません。
冷蔵庫も、布団も、テレビもない部屋に、病院から帰ってくる。
それでは、ふつうの暮らしは始まりません。



何もない部屋では、暮らしは始まらない（実際のお部屋）

これまでは夫個人の資金で続けてきましたが、個人の資金だけでは限界があり、今回、はじめてクラウドファンディングで支援を募ります。

6部屋は、最初の一歩。めざすのは「社会的入院をゼロに」

いまの「みまもる家。」は、人からお借りしたお部屋をご紹介する形です。
人のお部屋では、もしものことがあったあとのことまで、最後まで責任を持ちきれません。
そのため今は、お引き受けできる方を絞り、支えきれる方から少しずつ始めています。

いつかは自分たちの部屋を持ち、もっと多くの方に間口を広げたい。
退院できるのに帰る家がない人を、なくしたい。
6部屋分の家具家電は、その道のりの最初の一歩です。

プロジェクトの概要

・プロジェクト名：【大阪で6部屋分】社会的入院をゼロに。帰る家がない方へ、家具家電つきのお部屋を
・期間：2026年11月17日（火）～12月22日（火）
・目標金額：180万円（All-in 方式）
・支援の使い道：家具家電と生活用品つきのお部屋 6人分（1人分 約19.7万円）ほか
・お礼：活動報告のメール（3,000円）、サポーター証（10,000円）、お部屋の額縁にお名前（30,000円～）など
・実行者：株式会社ホープホーム（グループ会社）
・URL：https://camp-fire.jp/projects/992268/view



プロジェクトの概要（QR コードから CAMPFIRE のページへ）

代表・妻のコメント

「何もない部屋に帰ってきても、暮らせない。
その心細さを味わわなくてすむように、私たちが前もって段取りをします。」
株式会社ホープ 代表 井嶋和貴

「わからないことばかりですが、ひとつずつ、伝えたいことを書き足しています。
このページを見てくださるだけでも、私たちの励みになります。」
代表の妻 井嶋 文



ホープリハビリ訪問看護ステーションの入口で。代表 井嶋和貴（左）と妻 井嶋 文（右）

会社概要

株式会社ホープ

・代表：井嶋和貴

・所在地：〒545-0043 大阪市阿倍野区松虫通2-7-5

・事業：ホープリハビリ訪問看護ステーション、居住支援法人

・URL：https://www.hope-kango.com/

株式会社ホープホーム（グループ会社・「みまもる家。」の実行者）

・代表：井嶋和貴

・所在地：〒545-0043 大阪市阿倍野区松虫通2-9-2

・事業：不動産（宅地建物取引業 大阪府知事（2）第62425号）

・みまもる家。：https://mimamoruie.com/

報道関係の方へ

取材を歓迎します。代表・妻への取材、片付けやお部屋の準備の様子の撮影もご相談ください。

（入居されている方への取材は、ご本人の同意をいただける場合に限ります）

お問い合わせ：株式会社ホープ（みまもる家。） 担当 井嶋 文

電話：06-6651-1799（平日 8:30〜17:30） メール：info@mimamoruie.com